

第2期役員（理事・監事）決定

去る3月2日、KKRホテル東京で開催された平成21年度第2回本財団評議員会で、任期（平成22年3月31日）満了に伴う次期役員の改選が行われ、理事16名及び監事2名が選任されました。

また、当日、引き続き新理事により開催された理事会において、理事長に鴨下重彦理事、常務理事に松尾宣武理事及び柳澤正義理事の両理事が再選されました。

※なお、任期は4月1日より2年間ですが、公益財団法人の移行認定を受けた場合は移行登記日までとなります。

◆理事長ご挨拶



理事長
鴨下 重彦

平素は、小児医学研究振興財団の運営にご支援、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

去る3月2日に開催された理事会において、本財団の理事長に再任され、引き続き重責を担うことになりました。

本財団は、平成20年4月、日本製薬団体連合会及び日本小児科学会及び同学学会員並びに企業、賛同者各位のご支援により設立され、本年は3年目を迎えることができました。

少子社会の今日、持続可能な国の発展をもたらすためには、少なくなった子どもの健全育成は国家的重要課題であり、その実現のために子どもの心身の健康を守る小児科医の確保・支援と、基礎となる小児医学研究の振興に務めることが、当財団の活動目的であります。

このため、一昨年及び昨年は、若手小児科医・研究者及び研究会に対する研究助成金の交付、優秀論文著者へアワード（研究奨励金）授与、海外留学フェローシップに対する奨学金の交付事業を実施するとともに、昨年11月には「母子保健をグローバルに考える」をテーマに、国内外から大勢の参加者を得て、国際シンポジウムを開催いたしました。

今後は、応募者の多い研究助成事業の拡充、短期海外研究・研修に対する助成制度の創設、研究助成機関とのネットワーク化、主体的研究事業の実施に向けた体制整備等の課題に取り組んで参りたいと考えております。

また、組織基盤の強化のためにも公益財団法人への移行を果たすべく、平成23年度中の移行を目途とした準備を進めております。

内外の経済情勢は、非常な動揺と不安定の中にあって、財団の運営は真に厳しいものがありますが、事業の充実と健全な運営を図り、小児医学研究の振興に努めてまいり所存ですので、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

役員

※敬称略

- | | | |
|----|-------|------------------------------|
| 理事 | 天野 暉 | 日本小児科医会顧問 |
| 理事 | 岩田喜美枝 | (株)資生堂取締役副社長 |
| 理事 | 衛藤 義勝 | 東京慈恵会医科大学遺伝病研究講座教授 |
| 理事 | 加藤 達夫 | 国立成育医療研究センター理事長・総長 |
| 理事 | 鴨下 重彦 | 国立国際医療センター名誉総長 |
| 理事 | 小林陽之助 | 関西医科大学名誉教授 |
| 理事 | 坂田 和信 | 日本保育園保健協議会事務局長 |
| 理事 | 清野 佳紀 | 大阪厚生年金病院名誉院長 |
| 理事 | 高久 史磨 | 日本医学会会長 |
| 理事 | 木村 政之 | 日本製薬団体連合会理事長 |
| 理事 | 橋本 徹 | 国際基督教大学理事長 |
| 理事 | 前川 喜平 | 東京慈恵会医科大学名誉教授 |
| 理事 | 松尾 宣武 | 国立成育医療センター名誉総長 |
| 理事 | 南 砂 | 読売新聞社東京本社編集局解説部 |
| 理事 | 村田 光範 | 東京女子医科大学名誉教授 |
| 理事 | 柳澤 正義 | (社福)恩賜財団母子愛育会 日本子ども家庭総合研究所所長 |
| 監事 | 濱本 英輔 | 元国税庁長官 |
| 監事 | 角田 茂 | 元会計検査院官房審議官 |

メッセージ



国立成育医療センター
名誉総長

松尾 宣武

若き小児科医への伝言

小児医学研究振興財団は、難産のすえようやく生まれた子どもでもある。この機会に、設立に関わった関係者の一人として、忍耐強く財団設立へ導いた鳴下重彦理事長の情熱とリーダーシップに深く敬意を表したい。また、多大のご支援をいただいた多くの関係者の皆様に深く感謝申し上げたい。

今、小児科医に求められる役割は、大きく変わろうとしている。20世紀初頭、小児医療の目標は欧米に比し立ち遅れた母子保健水準の向上と感染症の制圧にあり、小児科医のリアリズムは明晰であった。21世紀初頭、小児医療の主要目標は子どものこのころの健康確保にある。年々増え続ける心身不健康な子どもの背景には、伝統的な家族や社会システムの崩壊と精神性を欠如した効率至上主義社会の出現があり、狭い意味での医療的対応では不十分であることは言を待たない。

小児科医のリアリズム復活に、若き小児科医の活躍に期待するところは大きい。子どものこのころの健康問題のように複雑な問題の解決には、真に創造的リサーチ活動と包括的プランが必要不可欠である。その第一歩は子どもの現状を直視することにある。若き小児科医の研究活動が本財団を母体にして活性化されることを心から期待したい。

平成21年度 研究助成金・アワード(優秀論文著者)・海外留学フェローシップ選考結果

2月10日(水)第2回選考委員会がKKRホテル東京に於いて開催され、下記のとおり受賞者(交付対象者)が決定されました。



研究助成金

—日本マクドナルド株式会社 協賛事業—

張田 豊 (横浜市立大学医学部 分子細胞生物学 特任助教)

「腎糸球体上皮細胞内シグナル伝達解析による
蛋白尿発症機序の解明とその治療応用」

石井 敦士 (福岡大学医学部小児科学教室 助手)

「小児交互性片麻痺の分子病態の解明
(副題)チャネルを標的とした小児交互性片麻痺の責任遺伝子の同定」

徳原 大介 (東京大学医科学研究所 炎症免疫学分野 博士研究員)

「インフルエンザウイルスに対する次世代型コメ型経口ワクチンの開発」

大塚 岳人 (佐渡総合病院 小児科医長)

「高病原性市中感染型メチシリン耐性黄色
ブドウ球菌の浸淫度把握と病原性解析」—出生コホート研究—

水岸貴代美 (武蔵野大学薬学部・薬学研究所 薬物療法学 講師)

「神経管閉鎖不全症および胎児発育異常における
スフィンゴ脂質代謝の役割の解明」



イーライリリー 優秀論文アワード

和文誌：筆頭著者

平野 嘉子 (東京女子医科大学小児科)

「Panayiotopoulos症候群106例の臨床・脳波学的検討」
日本小児科学会雑誌 2009;113(3):522-527

欧文誌：筆頭著者

磯島 豪 (国立成育医療センター 臨床研究センター)

「New reference growth charts for Japanese girls
with Turner syndrome」
Pediatrics International 2009;51(5):709-714



イーライリリー 海外留学フェローシップ

伊達木澄人 (長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科大学院生)

「複合型下垂体機能低下症の発症メカニズムの解明」

留学体験記

米国の発達行動小児科学臨床に触れて



筑波大学大学院
人間総合科学研究科 教授

宮本 信也

私は、2002年、当時設立されましたイーライリリー海外留学フェローシップにて2ヶ月間、米国の発達行動小児科学臨床の実際を学ぶ機会をいただきました。米国では、コロンバス小児病院、ボストン小児病院、フィラデルフィア小児病院の3つの小児病院を中心に、発達障害の研究センターであるシュライバーセンター (Eunice Kennedy Shriver Center) とUCLA小児病院も加え全部で5カ所を訪問しました。4つの小児病院では発達行動小児科学部門を中心として見学させていただきました。

米国での診療状況を見て感心したのは、一人の患児につき関係する大勢のスタッフがディスカッションして見立てや対応の方向を検討していくというスタイルでした。こうしたやり方ですと、見落としや思い込みが少なくなり、包括的な評価と対応方針を立てることができます。驚いたのは、こうしたチームでの検討が初診の日に行われてしまうということでした。コロンバス小児病院では、虐待疑いの子どもと家族の診察状況は、別室のモニターに映し出されます。別室には、ソーシャルワーカーの他、心理、警察官など、関係者がいます。診察が終わった後、虐待の確かさと今後の対応についてその場で話しあわれ、各自の役割分担も決められていました。ボストン小児病院では、自閉症疑いの子どもに対して、診察の他に一日かけて知能検査も含め4つほどの心理検査を行い、その日のうちにチームでディスカッションをしていました。もちろん、こうしたスタイルが可能なのは、医師以外にたくさんの専門スタッフ（心理、ソーシャルワーカーなど）がいるからです。

ただ、こうした状況を見ながら問題点も感じました。1日のうちで複数の検査をやることは、子どもにはかなりの負担になり、結果に影響が出る危惧があるように思いました。一人の子どもに全員で丸一日関わるということは、一日で受け付けられる患児の数が限られることとなり、待機患児の増加を招かないか気になりました。そして、診療費が高額になることも大きな問題です。発達障害児が受診した場合、初診の診察料は1日で2～3千ドル（20～30万円ほど）ほどのようでした。

もう一つ、驚いたことがありました。それは、子どもの神経性無食欲症（拒食症）に関心を持って診療している小児科医に一人も会わなかったことです。拒食症の診療について尋ねましたところ、拒食症への対応は心理が中心であり、医療に関わる時は精神科が関わる、小児科が関わるのは栄養障害が強いときの身体管理に関してだけとの回答でした。ただし、フィラデルフィア小児病院のCarey先生は、そうした「分業制」に若い小児科医が慣れていくことをとても危惧されておられました。

この留学では、個々の医師の診察能力は日本の小児科医も決して引けを取るものではないと感じました。違いの最も大きなものはシステムでした。しかし、彼の地のやり方をそのまま日本で行うことは必ずしも適切ではないとも感じました。日本の制度と価値観に合った子どもの心の診療体制を構築していくことの必要性を痛感しました。今、現在、その方向に自分が進めているのか心許ないのですが、今回、この体験記を書く機会を与えていただいたことをきっかけにもう一度考えてみたいと思います。ありがとうございました。



コロンバス小児病院ジョンソン先生と

賛助会員(個人)

※敬称略

赤次	司嶺	俊	二馨	岡岡	田田	純	一満	興兒	相玉	ひ浩	で子	武竹	知広	哲茂	久子	平平	尾林	敬伸	男一	村元	山山	明福	男祥
安熱	田保	田義	馨裕	岡岡	部本	武博	史文	小後	玉堂	浩欣	子彌	竹竹	広村	茂	子司	平廣	林松	伸公	一郎	元森	山内	福哲	祥夫
安雨	宮垣	浩	亘仲	小沖	小川	俊潤	一一	後後	藤藤	彰敦	子一	田田	村中	宗隆	篤之	福福	瀬重	三伸	一郎	森森	尾尾	哲浩	夫幸
新荒	川阪	幹	夫一	小奥	山口	眞紀	学子	後後	藤藤	雄一	彦一	田田	畑井	博喜	邦己	福福	永山	淳一	隆夫	森森	川下	友昭	幸宏
有飯	嵐嵐	鐵	治隆	小田	栗田	美知	子慈	加小	林林	繁正	夫弘	田田	村村	久正	浩子	藤藤	山枝	慶幸	二也	森森	田田	佐利	枝貞
五十五	嵐本	博	馬行	小野	田切	知子	厚孝	小駒	山藤	美佳	紀久	田田	阪阪	治秀	德夫	藤藤	岡木	幸雅	司男	守森	脇田	浩寛	一二
池石	井田	正也	浩志	小野	小野	俊	誠美	崎坂	藤峨	博六	久雄	長長	田田	明美	彦彦	藤藤	野村	伴弘	男子	安柳	田川	幸正	正義
石石	原部	達健	紀郎	小賀	西川	治紀	昭策	迫佐	野野	正弘	望子	塚辻	田屋	興裕	之幸	藤藤	所野	正哲	哲文	安柳	澤内	穰	弘滋
泉磯	田田	孔	明忍	河梶	治部	正康	行弘	佐々	間木	あか	ね子	堤鶴	澤木	正	仁正	藤藤	船船	文シ	ゲリ	柳山	川口	清	次薫
井位	田橋	家頭	夫幸	加勝	又藤	正敏	均誠	四重	方里	朋敏	子介	寺寺	井本	貴道	勝英	松松	別保	玲次	朗郎	山山	下城	雄一	聖伍
板井	田田	博路	子朗	賀加	藤藤	一堅	彦子	重芝	松尾	京瑠	子司	寺寺	門門	隆和	之創	松松	堀堀	拓雅	文信	山山	登野	恭淳	一子
市伊	田藤	悦末	志進	加重	里子	芳祥	郎二	柴嶋	田田	泉直	也樹	戸富	所所	崇秀	三穗	松松	正松	彰伸	二正	山山	本本	恒圭	久範
伊伊	藤藤	辰保	夫彦	金加	子納	一芳	郎二	志下	田田	真比	美湖	内永	尾尾	尚智	嘉四	松松	堀堀	隆重	光孝	山山	協田	英俊	一平
伊伊	藤藤	由秀	平子	金加	美美	重敬	彦子	白白	井井	裕嘉	比湖	永中	原川	健正	人馨	松松	堀堀	重淳	子文	山山	谷山	義和	正之
伊伊	藤藤	益正	人榮	神神	崎谷	悦節	子子	白末	石川	嘉比	湖繼	西西	野野	三初	馨美	松松	堀堀	光剛	志博	山山	岡岡	三康	子子
伊伊	藤藤	和厚	敏志	神神	山下	重敬	子子	杉杉	幡延	京久	一子	西西	野野	康博	郎幸	松松	堀堀	輝修	久紀	山山	岡岡	ゆか	忍宏
伊伊	藤藤	尚文	聖彦	河喜	多岡	浩協	子子	杉杉	井本	敏英	太功	新新	野野	和爲	廣夫	松松	堀堀	捷英	太祐	山山	岡岡	和信	子子
伊伊	藤藤	一賢	伸雄	喜喜	岡本	浩協	子子	杉杉	本本	佳孝	司齊	布布	田田	元常	史清	松松	堀堀	利秀	吉男	山山	岡岡	和信	子子
伊伊	藤藤	由秀	彦彦	北木	野村	浩協	子子	鈴鈴	木木	俊哲	亮紀	羽羽	井本	爲元	夫史	松松	堀堀	秀雄	祐吉	山山	岡岡	和信	子子
伊伊	藤藤	文一	雄彦	木木	田原	浩協	子子	砂砂	川崎	佳孝	司齊	服服	部部	常泰	清嘉	松松	堀堀	雄二	吉男	山山	岡岡	和信	子子
伊伊	藤藤	一賢	彦彦	桶桶	藤藤	浩協	子子	須磨	野根	俊哲	司齊	馬馬	場場	邦依	光洋	松松	堀堀	要一	雄二	山山	岡岡	和信	子子
伊伊	藤藤	由秀	信一	工久	保原	浩協	子子	清関	島島	俊哲	司齊	馬馬	場場	依里	光洋	松松	堀堀	要一	雄二	山山	岡岡	和信	子子
伊伊	藤藤	節孝	雄男	栗小	池池	浩協	子子	瀨高	橋見	義博	夫徹	馬馬	場場	正睦	光洋	松松	堀堀	要一	雄二	山山	岡岡	和信	子子
伊伊	藤藤	秀正	臣純	小小	泉泉	浩協	子子	高田	口見	義博	夫徹	馬馬	場場	正睦	光洋	松松	堀堀	要一	雄二	山山	岡岡	和信	子子
伊伊	藤藤	耕克	策明	小河	山幸	浩協	子子	竹竹	重重	義博	夫徹	馬馬	場場	正睦	光洋	松松	堀堀	要一	雄二	山山	岡岡	和信	子子

賛助会員(法人)

(株)メディセオ・パルタックホールディングス
第一三共(株)／杏林製薬(株)
森永乳業(株)／和光堂(株)
エーザイ(株)／キッセイ薬品工業(株)

「子どもの世紀」について

News Letter題字の「子どもたちの世紀」は、日本小児科学会が創立百周年を迎えた当時の厚生大臣であられた小泉純一郎先生に揮毫をお願いしてご快諾頂き、総理大臣ご在任中にお書きいただいたものです。

事務局より

お蔭様で当財団は3年目の春を迎えることができました。
財団設立準備室の設置時代から実施の海外留学フェローシップ事業は、本年度で9年目を迎えます。本号では第1号フェローの宮本信也先生に海外留学体験記をお願いし、ご多用の中ご寄稿頂きました。また、本号に賛助会員(個人・法人)名簿を掲載させて頂きました。ご支援、ご協力有難うございます。
最近、虐待死など乳幼児の不幸な事件が多いことに心が痛みます。少子化が進む中で、子どもの健全育成が強く望まれます。
(村松宣孝)

事務局



財団法人小児医学研究振興財団
JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B

TEL (03) 5818-2601 / FAX (03) 5818-2602

e-mail: shouni-iken@jfpedres.or.jp

ホームページ

<http://www.jfpedres.or.jp/>